

八中2年人権だより

徳島市 八万中学校
2年生 第4号
2023年6月5日
編集・文責 吉成正士

(3号からのつづき)

使い方を間違えると、鋭い刃物のように

■私は代表で話してくれた人や先生方の話を聞いて、今まで私たちがしてきたことが、どれだけ周りの人に対してひどいことをしてきたかを考え直すことができました。部落差別や給食、戦争について考え、それはすべて一人一人の意思、気持ちを行動にすることが大切だと思いました。

YYさんの「SNSにも人の心がある」という言葉にすごく胸を打たれたし、共感できました。便利で安全なものと思っても、一歩使い方を間違えると、鋭い刃物のようなものになり、いろんな人を傷つける。それは、あってはならないものだと思います。SNSのせいで芸能人や一般の人も命を落としている人がいて苦しんでいます。一人一人が気をつけることで、それは改善できる、そう思います。世の中には私たちが当たり前前にしていることを、私もやりたいと願っている人がいます。全員が平等に、平和に暮らせるようにするために、日ごろから自分にできることを考える。考えるだけじゃ何も始まらない。行動に移すことまで行うのが大切だと思うし、全員がそれをできたら、命を落とさなくてもいい人が増えると思う。日々の暮らしに笑顔が増える人もいると思う。そんな人を一人でも増やすために、今回の人権学習で学んだことを意識して行動していきたいと思います。(3組KR)

よく言われますが、そのモノが悪いのではないはずです。モノを使ってるのは私たち人間なのですから、私たちが使い方を誤らないように考える必要があります。SDGsの4「質の高い教育をみんなに」とは、そんな教育をさしているのではないのでしょうか。単に高い学歴をつけるためだけの教育ではなく、誰一人取り残すことなく、この星で持続して生きていくために、人としてどう生きていけばいいのかを学ぼう、と言ってるのではないのでしょうか。

「少女の遺品に込められた思い」

発表会も終盤にさしかかったころ、6つの作品を受けて、最近の皆さんの学校生活の課題について話をしたうえで、「命を粗末にしてはいないか、人へのリスクを欠いていないか」と問題提起させてもらいました。そして、数日前に届いた新聞記事「少女の遺品に込められた思い」(5月28日付毎日新聞)を読ませてもらいました。その最後の下り。

「入院中、りんさんは『帰ったらしたいこと』リストをノートに書いていた。3歳下の弟りょうちゃんが大好き。面倒見がいいし、優しいお姉さんの姿が思い浮かぶ。『りょうとかくれんぼしたい りょうとおにごっこしたい りょうとおふろに入りたい こうえんに行きたい 走りたい りょうりしたい』心臓移植を待っていた10歳の少女が夢見ていたのは、何でもない日常だった。」

何度読んでも涙ぐんでしまいます。そしてまた、し

っかり生きよう、と思います。

最近、幼いきょうだいの姿が目に残ることがよくあります。たとえば、登校をいきしぶる低学年の妹を、先に歩いては止まり、妹が追いついてはまた先に歩いて待つ兄の姿。たとえば、幼い妹が、年長の兄の手を引いて下校していく姿。たとえば、言うことを聞かない弟を、しかたないなと、あたたかい目で見守る姉の姿。きょうだいのいる皆さんのなかには、同じような思い出があるのではないかと思います。そんな人にはなおいっそう、このリストは強く胸を打ったのではないのでしょうか。

生きたくても、生きられなかった命があります。それは病気だけでなく、戦争や犯罪に巻き込まれた人もそうだし、理不尽ないじめや差別で命を絶つしかなかった人もそうです。そう思うと、もう少し人に優しくなってもいいのかもしれませんが。もうすこしやわらかくなくてもいいのかもしれませんが。

りんちゃんに恥じない生き方を、私たちもしていきたいと思いますか。

当たり前の日常が何よりも大切に尊い

■…(前半部省略)… 最後に、吉成先生が話してくださいました心臓移植を待ち続けた10歳の女の子、りんちゃんが望んでいたのは、私たちがごくごく普通に生活している日常だった。そのことを知って、今までの生活を振り返ると、時間を無駄にできてしまっていたなと思います。一日一日生きてこれていること、健康で幸せな日常はまさに今なんだなと感じることができました。そんな当たり前の日常が何よりも大切に尊いもので、一日一日を大切に、無駄なてことがないように、これからの人生を歩んでいきたいです。(4組KM)

教室に戻ったら終わり、じゃない

■僕は吉成先生が話してくれた女の子の話で、正直僕は泣いてしまいそうになりました。10歳で息を引き取った女の子。こんなにも若い年で亡くなった女の子は、僕らより大人だと思いました。弟やお姉ちゃんと遊びたいことを願っている女の子と違って、田中先生が言っていたSNSのトラブルや学校での生活態度、全力で生きたいと思っている女の子と比べたら、ずいぶんと情けない行動をしていると僕は思いました。そして田中先生が言っていた話を聞いて僕は、自分の行動を振り返ってみました。思えば友達にいじるような言葉をかけたり、授業中先生の話を聞かず寝ていたと思いました。頑張って発表してくれたみんなの話や、吉成先生が言ってくれていた、学び続けることをやめないという言葉がかけられても行動に移さない自分、教室に戻ったら終わりじゃなく、学び続けることを忘れないことを心がけたいと思います。(4組OI)

終わらない人権学習をこれからも

■今日、人権作文発表会に参加して、各クラスの代表者

6人が前で話してくれた中でも、私は3組のYKさんの発表が心に残りました。YKさんの話を聞きながら、SDGsや近年起こる食糧危機などを考えました。食べる物がなくなったら困るのに、どうして今、食べられるありがたさを思って食べず、捨ててしまったりするんだろうと。よく私は、給食の残されていくご飯、パンなどを見て、これを食べたいと望む子たちが世界中にはどのくらいいるんだろう…と思います。人によって食べられる量も違うと思います。だけど、嫌いだからという理由で食べないのではなく、少しでも今、自分が食べられることに感謝して食べる人が増えたらいいと思うし、私もそうしていきたいです。

そして最後、私は吉成先生の臓器移植を待ち、10歳で亡くなってしまった女の子の話が痛いほど心に残りました。話の内容もそうですが、途中から吉成先生が泣きながら新聞の記事を読んで思いを伝えてくれたことにとても心を打たれました。あの話を聞いて、怖い、かわいそう、で終わってしまうのは違うし、もったいないと思いました。今年もこの人権作文発表会を開かれ、たくさんの知識がつき、それが次の学習意欲となりました。終わらない人権学習を、これからも続けていきたいです。(5組大森美空)

大切なことは「日常」であることを、あらためて思わせられます。日常というとぼやけますが、つまり、「今」です。「今」のすぐあとです。自分は何を考え、どうするのかです。いっぺんにすべては変わりません。でも少しなら、今すぐにでも変われます。その積み重ねを続けることです。「継続は力なり」です。

欲が持てることの幸せ

■TAさんとFHさんは、同じことについてふれていましたが、お互い違う見方をされていてすごいと思いました。部落の人とは結婚してはいけないと言ったりするのは本当におかしいことで、あってはならないことだと思います。部落だからといって差別するのは違うと思います。同じ人間だから、差別をする必要は全くないと思います。

KMさんの戦争のことについては、私もよく分かることがたくさんありました。私も戦争のときとかに使われていたものや、その戦争が起こっていたときの白黒写真を見たことがあります。今までの私は、戦争のことについてあまり考えず、興味を持ったことがなかったのですが、他人事のように考えていましたが、いざこういうところで発表して教えてもらうと、すごく興味を持つことができました。これから戦争のことについて、たくさん調べて学ぼうと思うことができました。

OHさんの発表では、目が見えない障がい者の方について書いていましたが、実際に障がい者の立場になってやってみるというところに感心しました。体験してみないと分からないことはたくさんあったりするので、その人の立場になってやってみるというのも、とてもいいことだと思います。

6人の発表を聞いて、部落差別や戦争というのは、一度聞いたことのあるようなことでしたが、こうやって発表しあって学べることはいいことだと思います。これからも広げていきたいことは広げていって、もっともっと「人権」について学んでいきたいと思いました。

最後に、欲望があることというのは幸せということをお忘れたいと思います。(1組KA)

人の「欲」は、使い方によっては最悪の事態を招きます。しかし、そんな欲も、生きていればこそです。

決して「悪」ではないはずです。であるならば、その欲を自分個人のためだけでなく、誰かのため、周りの人のため、多くの人のため、未来のため、この星のために使ってみませんか。すべてが変わっていきそうな気がします。変えていけそうな気がします。

すべてどこかつながっている、自分が変わる

■人権とは何なのか、理解しているのか、していないのか、いろいろなことでそんな単純な考えでいいのか、「普通」に生きていけない人たちが今の学校を見たらどう思うだろうか、このままではいけないのではないのだろうか。そう深く考える人権集会になりました。

まず、今日学校に来ている、授業を受けられる、今これを書けている、それ自体がうらやましいと思っている人がいるんだと思いました。「無知だから…」ハンセン病やコロナ差別で学んだこの言葉を思い出しました。「普通」に生きられない人がいることを知らない、理解していないから、雑に生活をしてしまう。でも僕たちは習っていて、少なからずそういう人たちがいることは知っていたはず。なのに、「だるい」や、ご飯を残したりして、考えが甘いんだなと思ったし、聞いていて、大変な思いをしている人がいることを知っていながら、一番に「無知だから…」と逃げるようなことが思い浮かんだ僕がまだまだだと思いました。そして、心臓移植を待っている人がいるのに、自分たちが食べ物を残し、命を粗末にしているわけがないし、もっと全力で生きなければならないなどなるはず。す。

今日、この話をきっかけに、給食の残飯が少しでもなくなり、身近なことやしたくないようなことにも全力でチャレンジするようにしようと思いました。最後に、今日の6名が発表してくれたことは、すべてどこかにつながっているところがあって、今までと考え方が変わって、自分にとっていい人権集会になったと思いました。(1組FS)

すべてどこかにつながっているのです。そう感じるまで学習が進んできたということです。人権に関係していないことはありません。世の中のすべてのことは、人権と関係しています。人権とつながっているのです。そのことに気づいて周囲を見渡し考えていくと、今まで見えてなかったことが見え始めます。その視点を忘れることなく、大事に育んでももらえればと思います。



今回の発表会を終えたとき、「挙がる手が少なくて、低調だったな。1年間取り組んできたのは何だったんだろう…」と少しへこみました。でも、感想を読んでいくうちに、だんだん気持ちが上がってきて、救われるような思いになりました。捨てたもんじゃない。ちゃんが残ってるし、育ってる。そんな思いになれました。しかし、目の前の誰かを救うのは、その瞬間の行動に他なりません。その力を高めるために、毎時間、手を挙げられるのか、何を語るのか、が試されているのです。今すぐ、じゃなくても構いません。でも、少しずつでもいいので、いつか必ず、行動に移せることを期待し続けたいと思います。

これからしばらくは、いろんな戦争についての平和学習をしていきます。そして夏休み前、あらためてみんなで語り合ひましょう。平和学習を通して、命について、家族とのつながりについて、友とのつながりについて語り合ひましょう。「自分を語る」ことです。